

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域に位置する湧別町は豊かな自然に恵まれており、酪農業や漁業を中心とした一次産業が盛んである。

圏域内には、湧別町内で活動する湧別漁業協同組合と、サロマ湖内の漁業資源、漁業環境を管理するサロマ湖養殖漁業協同組合があり、第1種漁港2港（芭露漁港・登栄床漁港）、第2種漁港1港（湧別漁港）、第4種漁港1港（サロマ湖漁港）の計4漁港により漁業活動が展開されている。

地区ではホタテガイ等の主要な漁獲物の水揚げが堅調であり、漁協経営も好調であるため合併の動きは無い。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域ではオホーツク海やサロマ湖を漁場としたほたてがい漁業及びさけ定置漁業及びが盛んであり、これら漁業種類で圏域全体の水揚量の9割を誇る。

主要魚種はホタテガイとサケであり、令和元年の港勢調査によるとホタテガイ（稚貝養殖を含む）は漁獲量が36,170トン、金額が49億円、サケは漁獲量が1,371トン、金額が7億円となっている。

ホタテガイは地まき養殖により資源造成がなされ、平成26～27年に低気圧による漁場被害を受けたものの、漁場の回復に伴い現在では漁獲量が増加傾向にある。また、サケ・マスについては人工種苗放流による資源造成が行われ、漁獲水準の維持に努めている。

③ 水産物の流通・加工の状況

圏域内で水揚げされた漁獲物は、湧別漁港の産地市場に集約され、特にホタテガイについては湧別漁業協同組合の自営加工場で干貝柱製品等に加工されるほか、圏域内外の民間水産加工場や仲買人等を通じ、国内外へ流通している。

④ 養殖業の状況

ホタテガイについてはサロマ湖内で天然幼生を採取して中間育成した稚貝をオホーツク海の前浜に放流し、その3年後に成貝を漁獲する地まき養殖の生産体制が確立されている。

サケ・マスについては毎年、秋に回帰した親魚で人工授精を行い、翌春に放流し、その後、回帰した成魚を漁獲する資源造成の体制が確立されている。

また、当圏域ではサロマ湖内においてカキ養殖も営まれており、11月～翌3月にかけて出荷されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業経営体数は169経営体、組合員は268名となっている。

近年の組合員数は横ばいであり、水揚げも堅調であることから、今後とも同様の傾向が継続することが見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

主要魚種であるホタテガイ及びサケ・マス類については、安定的な漁獲を図るため、地域漁業者により種苗生産と放流が行われている。

また、ホタテガイやサケについては、天蓋施設などの衛生管理施設を設けたハード対策と、港内における衛生管理のルール設定などソフト対策の取組によって、海外の衛生管理基準を満たす製品づくりの体制が構築されている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

芭露漁港では、漁港施設用地の不陸によって漁労活動に支障が生じているほか、航路・泊地の埋塞対策が課題となっている。

登栄床漁港では、養殖漁業等に携わる漁船の利用が多く、漁港内の混雑緩和が課題となっているほか、既存施設の老朽化に伴う機能保全が課題となっている。

湧別漁港では、圏域内で漁獲されたホタテガイの一次加工処理能力の向上や、既存施設の老朽化に伴う機能保全、航路・泊地の適正水深の確保が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当圏域では、ホタテガイの水揚げや集出荷機能を湧別漁港に集約するなど各漁港機能の役割に合わせた集約化が進められているが、将来的な漁業形態の変化に合わせ対応する。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	流通拠点型	<p>設定理由；</p> <p>地区で水揚げされた漁獲物は、湧別漁港の産地市場で集荷された後、消費地や加工場へ出荷されているため。</p>
② 圏域範囲	湧別町	<p>設定理由；</p> <p>圏域内の水産物が集約される湧別町の範囲としたため。</p>
③ 流通拠点漁港	湧別漁港	<p>設定理由；</p> <p>漁港背後に圏域内の水産物が集約される産地市場や加工場が立地するとともに、災害発生時には事業継続計画 (BCP) に従い当該漁港を拠点に漁業活動が早期に再開できる態勢が構築されているため。</p> <p>・ 属地陸揚量：30,756t (R1)</p> <p>属地陸揚金額：46 億円 (R1)</p>
④ 生産拠点漁港	芭露漁港・登栄床漁港	<p>設定理由；</p> <p>属地陸揚げ金額が芭露漁港で5億円、登栄床漁港で12億円であり、ほたてがい養殖漁業、かき養殖漁業などにおいて水揚げや日常的な漁具のメンテナンスといった漁労活動の拠点となるなど中核的な役割を果たすほか、荒天時には近隣漁船の避難場所として機能するため。</p> <p>・ 属地陸揚量：9,627t (R1)</p> <p>属地陸揚金額：16 億円 (R1)</p>
⑤ 輸出拠点漁港	湧別漁港・芭露漁港・登栄床漁港	<p>設定理由；</p> <p>輸出対象魚種であるホタテガイの陸揚拠点となっているため。</p>

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	40,383	圏域の登録漁船隻数(隻)	366
圏域の総漁港数	4	圏域内での輸出取扱量(トン)	5,072
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	湧別地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ・カキ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	ホタテガイ(地まき) 28,491 ホタテガイ(養殖) 7,699 カキ類 1,117
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ホタテガイ(地まき) 3,669 ホタテガイ(養殖) 1,212 カキ類 270

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・ 輸出促進への対応

輸出先国の衛生基準等ニーズに対応した水産物を生産し、輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大と鮮度保持対策を進める必要がある。

また、湧別漁港では、危害要因を排除し、衛生管理体制をハード面から構築するため屋根付き岸壁を整備しているところであるが、今後は管理者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るため、より一層のソフト対策を講じていく必要がある。

② 養殖生産拠点の形成

岸壁不足や泊地の狭隘、作業動線の未整備に伴い、ホタテガイ稚貝の集出荷など養殖漁業の陸上作業で非効率な状況にあることから、改善を図る必要がある。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境の変化等により主要魚種の漁獲水準が低下傾向にあるなどの課題が顕在化しており、持続可能な漁業生産を確保するため、漁港施設用地を活用した陸上畜養・増養殖や、漁港区域内の海面を活用した畜養・増養殖といった地元の取り組みと連携した漁港整備を推進する。

②災害リスクへの対応力強化

・漁業地域の安全・安心の確保

自然災害に対応した防災機能対策や漁港利用者の安全確保ができるよう、航路・泊地の静穏度を高めるための施設整備が必要である。

・持続可能なインフラ管理の推進

予防保全を含めた持続可能なインフラ対策を講ずるため、ドローンなどの新技術を導入した施設の診断を迅速かつ効率的に行うとともに、外郭施設など老朽化した施設の機能保全や、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う必要がある。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

・地域活性化の取組との連携

湧別漁港では、背後地に湧別漁業協同組合の直売所があり、観光客が新鮮な水産物を求めて来訪することから、観光資源ともなる良質な水産資源の確保に繋がる施設整備により地域の活性化を目指す。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

・就労環境の改善

当圏域では、漁獲物の選別作業の際に女性など多様な担い手が従事しており、衛生管理施設（天蓋施設）の副次的な効果としてこれら担い手に対する就労環境が改善されることから、当該施設の施設整備や機能保全を図る。

また、芭露漁港では漁港施設用地の不陸によって漁労活動に支障が生じていることから、施設改良を施し、就労環境の改善を図る必要がある。

・生活環境の改善

登栄床漁港では、背後の漁業集落に集落排水処理施設が設けられているが、施設の老朽化が進行していることから、当該施設の機能保全を図る必要がある。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
湧別	輸出促進	水産流通	湧別	2	○
湧別	輸出促進	水産業強化	湧別	2	○

・輸出促進

衛生管理型漁港としての機能強化を図るため、ホタテガイ一次加工処理施設の設置や水揚岸壁等を整備する。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
芭露	養殖拠点	農山漁村	芭露	1	
登栄床	養殖拠点	水産生産	登栄床	1	
湧別	養殖拠点	水産流通	湧別	2	○

・養殖拠点

芭露漁港では、用地の不陸によってほたてがい養殖やかき養殖の陸上作業に支障をきたしていることから、用地等の整備を行う。

登栄床漁港では、港内の狭隘によってほたてがい・かき養殖の作業に支障をきたしていることから、岸壁や泊地、航路等の整備を行う。

湧別漁港では、地まきしたホタテガイの生産拠点としての漁港機能の維持・向上を図るため、適切な施設整備を推進する。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
湧別町	藻場・干潟	水産多面的機能発揮対策

・藻場・干潟

コムケ湖内の養殖場（海水交流施設）整備により、カキ養殖場の水質やホクカイエビの生息場となる藻場の維持を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
網走	予防保全	機能保全	芭露	1	
網走	予防保全	機能保全	登栄床	1	
網走	予防保全	機能保全	湧別	2	○

・予防保全

外郭施設など老朽化施設の機能保全や、航路・泊地の適切な水深を確保するため浚渫を行う。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
芭露	就労環境	農山漁村	芭露	1	
湧別	就労環境	水産流通	湧別	2	○
登栄床	生活環境	漁村整備	登栄床	1	

・ 就労環境改善

芭露漁港では、用地に段差が見られ、漁労作業で支障をきたしていることから改良を施す。

湧別漁港では、衛生管理施設（天蓋施設）の副次的な効果として就労環境が改善されることから当該施設の適切な整備を図る。

・ 生活環境

背後の漁業集落に集落排水処理施設が設けられているが、施設の老朽化が進行していることから当該施設の機能保全を行う。

4. 環境への配慮事項

漁港整備にあたっては、懸濁物の流出防止やサケ稚魚の降海時期に配慮して施工するものとする。

また、環境負荷の削減を目指し、再生可能エネルギーの導入や、施工時におけるリサイクル材の利用について検討する。

コムケ湖内の環境を維持することにより、湖内の藻場が保全され、水質の浄化効果が見込まれる。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

北海道オホーツク総合振興局水産物流通圏域図

網走西部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 雄武漁港(2)
 圏域総陸揚量: 23,381 t
 圏域総陸揚金額: 53 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 18,724 t
 圏域海面養殖業総産出額: 33 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

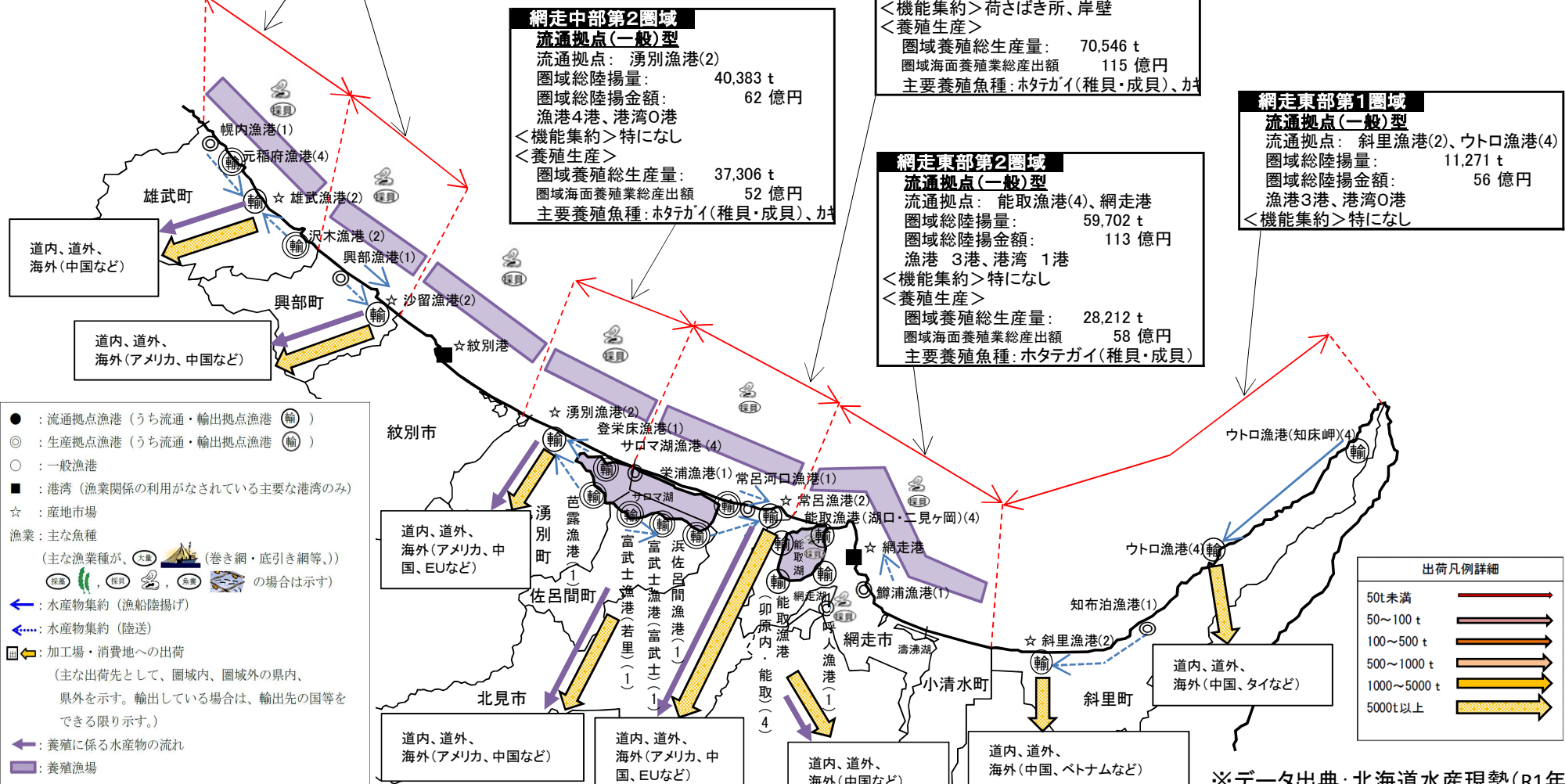
網走西部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 沙留漁港(2)
 圏域総陸揚量: 20,096 t
 圏域総陸揚金額: 36 億円
 漁港2港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 16,443 t
 圏域海面養殖業総産出額: 23 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)

網走中部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 湧別漁港(2)
 圏域総陸揚量: 40,383 t
 圏域総陸揚金額: 62 億円
 漁港4港、港湾0港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 37,306 t
 圏域海面養殖業総産出額: 52 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走中部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 常呂漁港(2)
 圏域総陸揚量: 75,384 t
 圏域総陸揚金額: 135 億円
 漁港6港、港湾0港
 <機能集約>荷さばき所、岸壁
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 70,546 t
 圏域海面養殖業総産出額: 115 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)、カキ

網走東部第1圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 斜里漁港(2)、ウトロ漁港(4)
 圏域総陸揚量: 11,271 t
 圏域総陸揚金額: 56 億円
 漁港3港、港湾0港
 <機能集約>特になし

網走東部第2圏域
流通拠点(一般)型
 流通拠点: 能取漁港(4)、網走港
 圏域総陸揚量: 59,702 t
 圏域総陸揚金額: 113 億円
 漁港3港、港湾1港
 <機能集約>特になし
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量: 28,212 t
 圏域海面養殖業総産出額: 58 億円
 主要養殖魚種: ホタテガイ(稚貝・成貝)



- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港)
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業: 主な魚種 (主な魚種が、(巻き網・底引き網等。)) (稚貝、成貝、カキ、魚類) の場合は示す)
- ← : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ← : 水産物集約 (陸送)
- : 加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等ができる限り示す。)
- ← : 養殖に係る水産物の流れ
- : 養殖漁場

出荷凡例詳細

50t未満	細い赤い矢印
50~100 t	細いオレンジ色矢印
100~500 t	細い黄色矢印
500~1000 t	細い太い黄色矢印
1000~5000 t	太い黄色矢印
5000t以上	太い太い黄色矢印

※データ出典: 北海道水産現勢(R1年)